

～ハケ岳歩こう会創立20周年記念～
甲州街道ウオーク

コースマップ

第3回・府中宿～八王子宿
2018年5月23日(水)

- ・距離 約18km
- ・解散 西八王子駅 16:00頃
- ・担当者 大嶋俊壽
田中憲一
吉田三男
前田和也

甲州街道第3回 府中宿～八王子宿

府中宿から日野宿の間の甲州街道は洪水により多摩川の川筋がよく変わり、それに伴って道筋も度々変更されてきた。今回は「ハケ下の道」または「ハケの道」と呼ばれる江戸時代初期の甲州街道を歩く。ハケとは崖のことで、多摩川の河岸段丘の崖の下ということから名づけられた。

【谷保天満】

関東三大天満宮(あと二つは湯島・亀戸)の一つで古くから地元の鎮守として敬愛されてきた。菅道真が太宰府に流されたときに道真の三男、道武はこの地に流された。道真の死後、道武がその姿を彫って祀ったものが天満宮のはじまりという。

【万願寺の一里塚】

日本橋から九里目の一里塚、石田大橋から現在の甲州街道との合流までは旧街道の痕跡はあまり残っていないが、数少ない旧街道の名残の一つ。八里目の一里塚も残っているが、NECの工場内で一般には見られない。

【石田大橋(石田の渡し)】

平成19年(2007)に石田大橋が完成したことによってこのハケ下の道を辿る事ができるようになった。甲州街道の道筋の変更とともに渡しも「万願寺の渡し」、「日野の渡し」と変遷していく。裏面に続く・・・

・次回開催 第4回 八王子宿～与瀬宿 2018年7月25日(水) 距離 約16km 集合 西八王子駅(午前9時30分)

八王子宿～与瀬宿は小仏峠越えで標高差500mほどの上り、下りがあります。整備はされませんが山道を歩きます、トレッキングシューズなどのしっかりした靴がお勧めです。



【新宿御苑】

徳川家康の関東に移封された慶長14年（1590年）に江戸に先陣で入り甲州街道と鎌倉街道の交差付近に陣を築いて鉄砲隊を率いて守りを固めた、その功により四谷から代々木にかけて20万坪の広い屋敷地を賜った。それゆえ内藤新宿と呼ばれている。内藤家は鎌倉時代からこの武士でこの家は三河内藤家といわれています。高遠藩内藤家は清成から7代の内藤清枚（キヨカズ）が初代藩主です。維新後の明治5年（1872年）には官営農業試験場になり明治12年に宮内省に移管され新宿植物御苑になりました。日本庭園の池は内藤家が安永元年（1772年）に玉川上水の水を利用して完成したものです。戦後は昭和24年に国民公園として一般に開放され厚生省の所管となりました。昭和46年に全国の国立公園などを所管する環境庁の所管に移りました。

【牛窪地蔵】

この辺りは湿地帯で雨乞いの場所であった。また、ここには刑場があり極悪人が牛裂きの刑に処せられたので「牛窪」という名がつけられた。牛窪地蔵は悪疫が流行したので子供の安泰を祈願し、正徳元年（1711年）に建立された。ここには地蔵のほかが文化3年に建てられた道供養塔や康申塔がある。この「道供養塔」は道路自体を供養して、報恩感謝の念を捧げ、交通安全を祈る全国でも珍しいものである。

【笹塚跡】

笹塚の地名は、甲州街道の両側に笹の繁った塚があったことが由来する。慶長9年（1604年）に大久保長安によって設置され、天保14年（1843年）の「村差出明細帳」には「一里塚村内字笹塚と申所往来左右に御座候」とあり、一里塚という説もある。

【和田堀廟所】

大正12年の関東大震災で築地本願寺が全焼し再建にあたって多数の墓地を移転する必要から陸軍省の火薬庫跡地の約1万1千坪を払い下げて貰い昭和4年に墓地をここに移転し仮本堂が和田堀廟所として設立されました。瓦葺きの木造作りの本堂も昭和20年5月25日の大空襲で焼失し昭和29年にインド仏教式の新本堂が再建されました。樋口一葉 水谷八重子 古賀政男 佐藤栄作 内田吐夢等のお墓があります。